

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 4 号について
平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 4 号を発表したので送付します。

平成 2 0 年度病害虫発生予察注意報第 4 号

平成 2 0 年 1 1 月 2 8 日
宮 崎 県

- 病害虫名 斑点病、菌核病、黒枯病
作物名 ピーマン
1 発生地域 県下全域
2 発生時期 -
3 発生量 斑点病：多、菌核病：多、黒枯病：前年と同程度
4 注意報の根拠

1) 斑点病

11月中旬の巡回調査における発生面積率61.5%（平年21.4%、前年13.3%）、発病葉率1.2%（平年0.5%、前年1.1%）は、平年より多である。（図1）

2) 菌核病

同調査における発生面積率30.8%（平年3.6%、前年0.0%）、発病株率0.3%（平年0.1%、前年0.0%）は、平年より多である。（図2）

3) 黒枯病

同調査における発生面積率23.1%（前年40.0%、前々年0.0%）、発病葉率1.4%（前年1.7%、前々年0.0%）は、発生が多かった前年と同程度である。（図3）

- 4) 向こう1か月の長期予報によると、気温は平年並または低い確率ともに40%と予想されており、特に多層被覆下のハウス内は病原菌の蔓延に好適な条件になると考えられる。
（鹿児島地方気象台 11月21日発表）

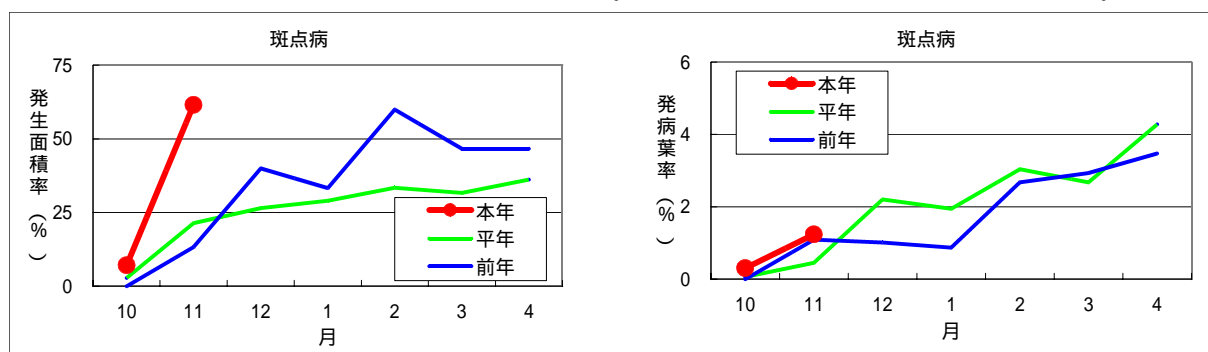


図 1 斑点病の発生面積率、発病葉率の推移

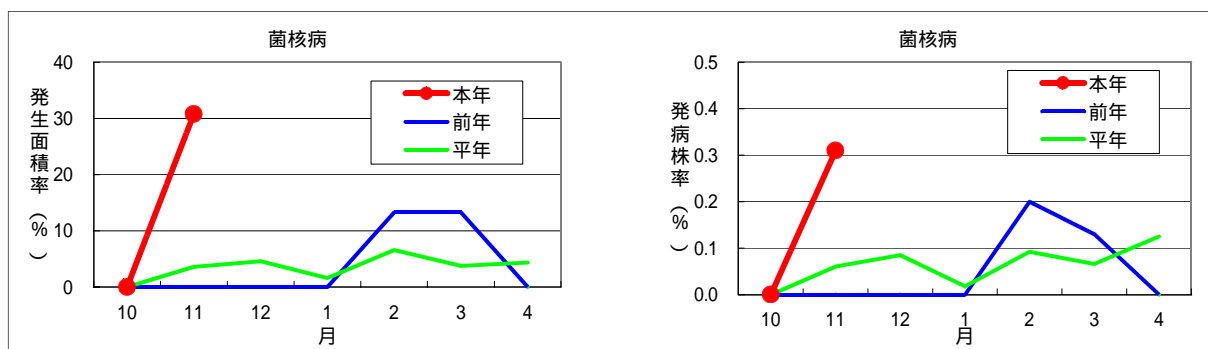


図 2 菌核病の発生面積率、発病株率の推移

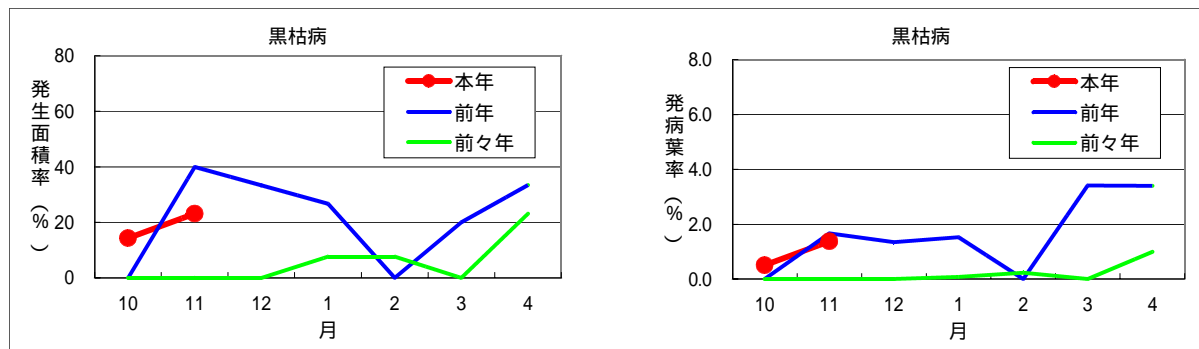


図3 黒枯病の発生面積率、発病葉率の推移

5 防除上の注意

斑点病

発病適温が20～25 で多湿条件で発生しやすい。

整枝を行って茎葉が過繁茂とならないように注意する。発病葉は、極力ハウス外へ持ち出し焼却するなど適正に処分し、ハウス内の病原菌密度の低下を図る。

病勢が進行すると防除困難となるため、予防及び早期防除に努める。

菌核病

15～21 の多湿条件でよく発病する。病斑部に形成される菌核は、それ自体は伝染源にならないが、ほ場に残すと次作での第一次伝染源となる。

発病後の防除効果は期待できないので、予防及び初期防除に努める。

発病枝は菌核を形成する前に持ち出し処分する。

黒枯病

被害茎葉、果実上に形成される分生子により伝染し、高温多湿条件で多発する。

ほ場内が多湿条件にならないよう換気に努め、排水を良好にするとともにマルチなどを行う。

被害茎葉、果実は伝染源となるのでは場外に持ち出し、適切に処理する。

本病に対する登録農薬は少なく、蔓延してからの防除では効果が上がりにくいことから、予防・初期防除に重点を置き、発病の抑制と菌密度の低下を図る。

共通

いずれの病害も、ハウス内の温度および湿度管理に十分注意する必要がある。外気温や温度設定の状況、多層被覆栽培下では暖房機が稼働しないこともあり、送風機を作動させるなどの管理を行う。

薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション防除を行う。

その他詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》病虫害防除・肥料検査センター 米良
 TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499
 ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp